

# 農作物病害虫発生現況情報（7月） 水稻編

## 1 いもち病（葉いもち）

(1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は4.1%（平年3.2%）であり、平年並だった（図1）。

(2) 地域別では、一関、東磐井で発生圃場率が平年より高かった（図2）。

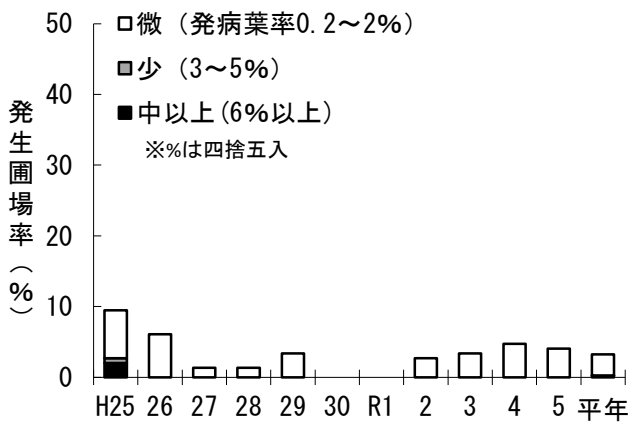


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（7月下旬）

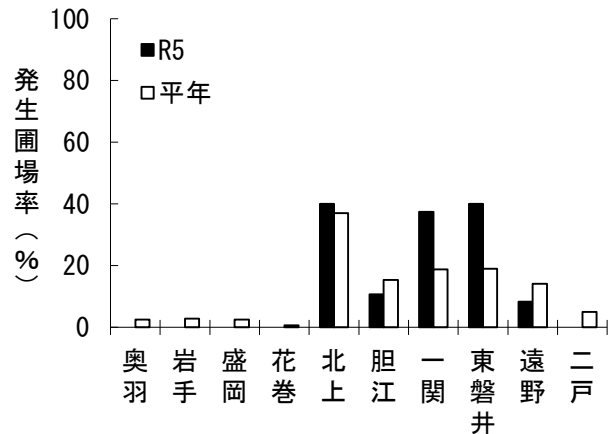


図2 地域別の葉いもち発生圃場率（7月下旬）

※ 発生程度微（発病葉率0.2%）未満を含む。

## 2 紋枯病

(1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は12.8%（平年18.8%）であり、平年よりやや低かった（図3）。

## 3 ばか苗病

(1) 7月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は6.1%（平年8.2%）であり、平年よりやや低かった（図4）。

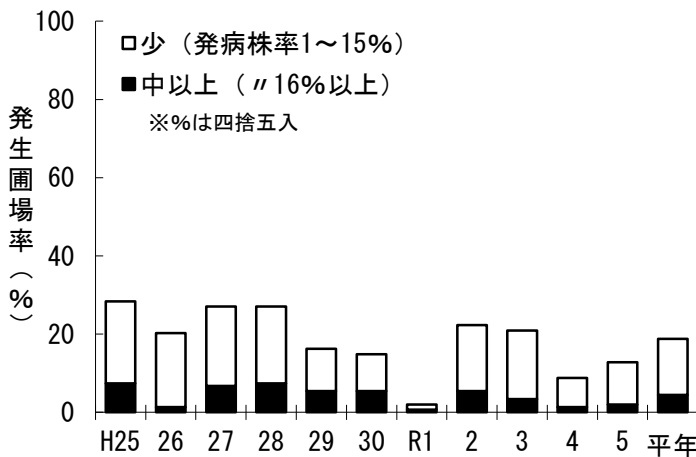


図3 紋枯病発生圃場率の年次推移（7月下旬）

※ 病斑が第4葉鞘以下の発病を含む。

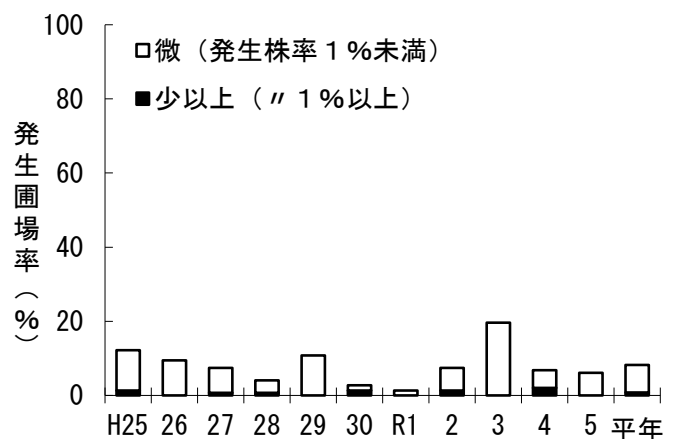


図4 ばか苗病発生圃場率の年次推移（7月上旬）

## 4 ごま葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

## 5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）では、7月第3半句と第6半句にカスミカメムシ類幼虫のすくい取り頭数が多かった（図5）。
- (2) 7月下旬の水田畦畔におけるすくい取り調査（74圃場）では、発生圃場率は67.6%（平年48.9%）で平年より高かったが、1地点当たりのすくい取り頭数は5.3頭（平年9.0頭）であり、平年より少なかった（図6）。
- (3) 特に、イネ科雑草が出穂している畦畔では、アカスジカスミカメ成虫がすくい取られている。

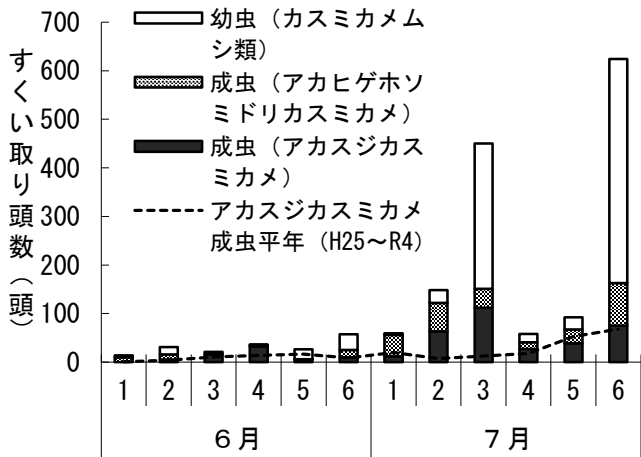


図5 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第6半句現在、往復20回振）

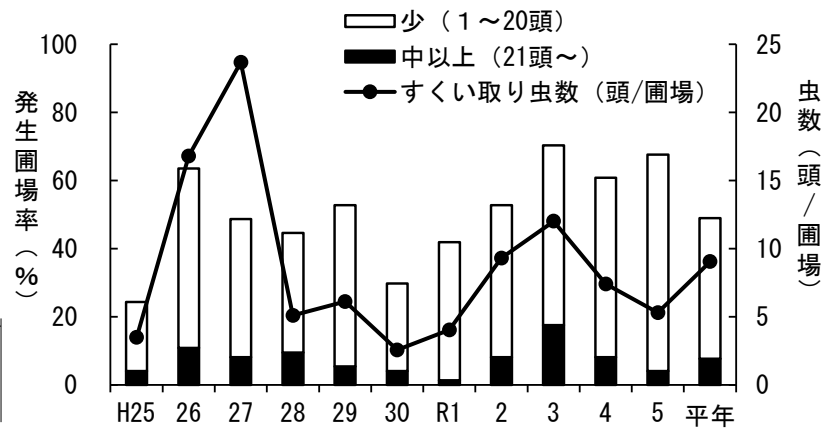
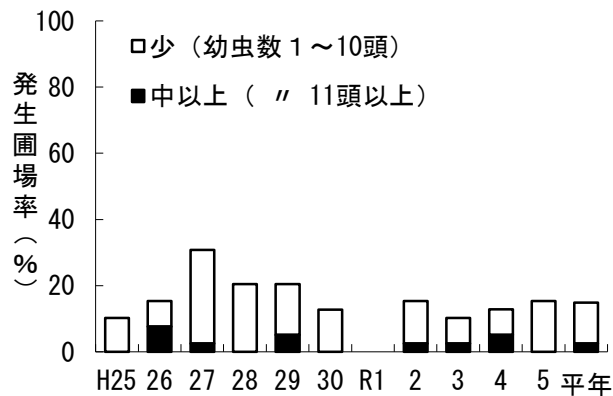


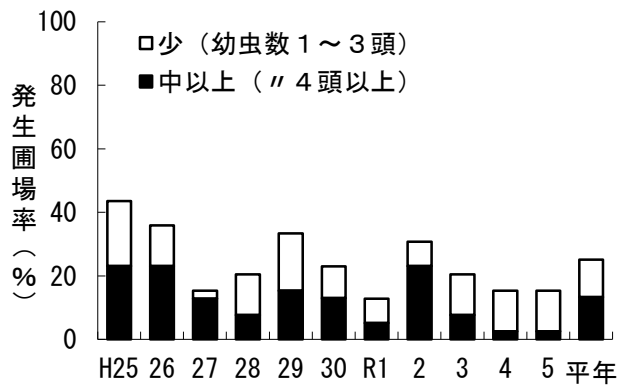
図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振）

## 6 フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- (1) 7月の本田すくい取り調査（39圃場）における第2世代幼虫の発生圃場率は、7月上旬は15.4%（平年14.9%）で平年並、7月下旬は15.4%（平年25.1%）で平年より低かった（図7）。



7月上旬



7月下旬

図7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）幼虫の発生圃場率の年次推移（7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振）

## 7 ウンカ類

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、セジロウンカの発生圃場率は20.5% (平年0.8%)、ヒメトビウンカの発生圃場率は15.4% (平年3.6%) であり、ともに平年より高かったが、発生程度の高い圃場は確認されなかった (図8)。

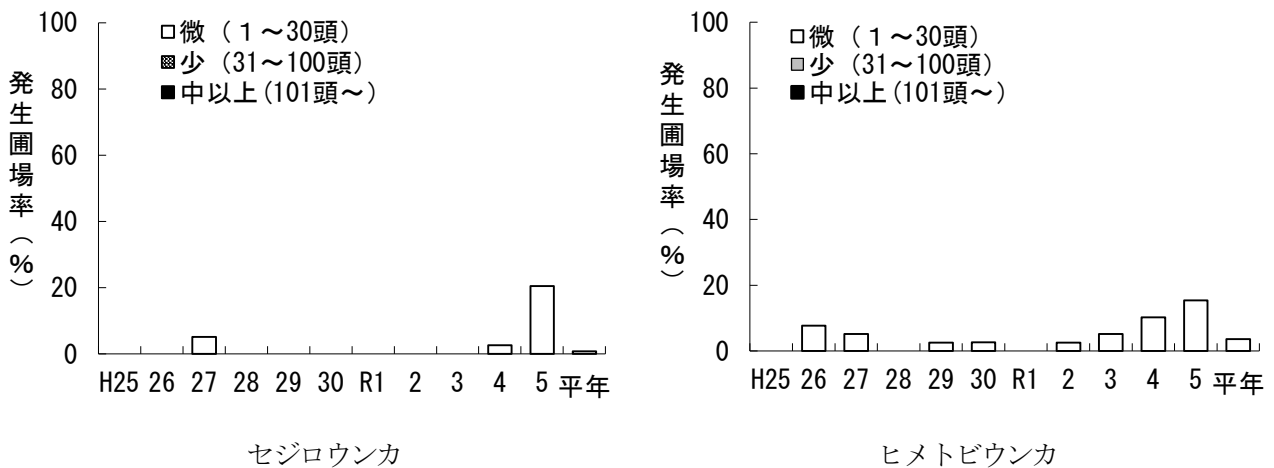


図8 ウンカ類の発生圃場率の年次推移  
(7月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

## 8 コバネイナゴ

(1) 7月の本田すくい取り調査での発生圃場率は、7月上旬は59.0% (平年66.7%)、7月下旬は71.8% (平年76.7%) でともに平年並だった (図9)。

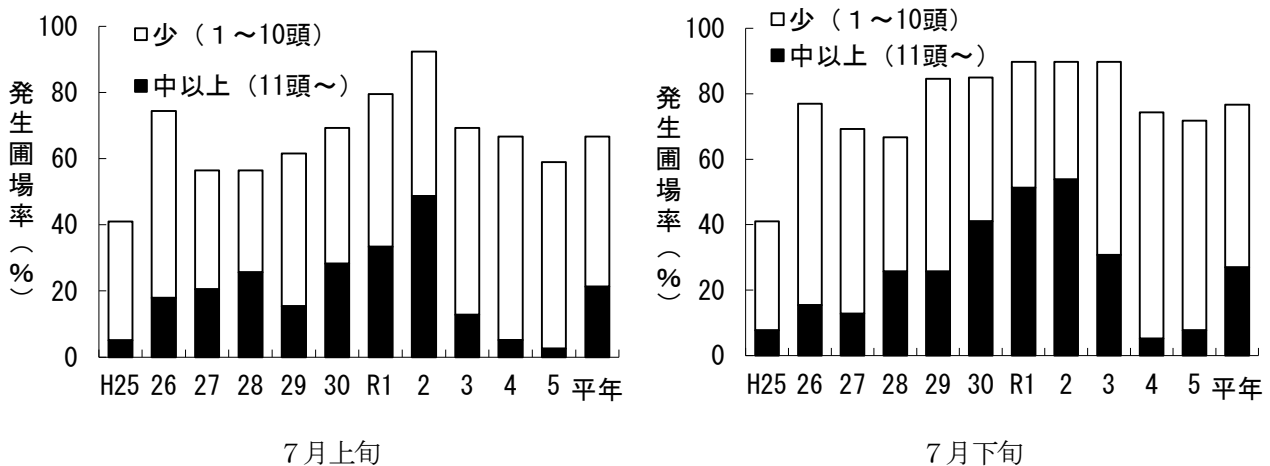


図9 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移  
(7月上旬、本田すくい取り、往復20回振)

## 9 ツマグロヨコバイ

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった (データ省略)。